文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間　会報 No.59　2012 年 2 月 5 日発行
川崎市幸区古市場 2-109　京浜協同劇団内　TEL 044-511-4951　郵便振替 00250-3-18369

第 6 回お楽しみ会を開催しました

事務局　**山木　健介**

1 月 9 日（月・祝日）に「お正月お楽しみ会」を開催しました。

京浜協同劇団の稽古場「スペース京浜」に地域の人たちが気楽に来てくれるようになるには、どんな催し物をやっていくのが良いのかと考えて、子ども向けの「お楽しみ会」を 2003 年 1 月 19 日に開催しました。毎年ではありませんが、今回で 6 回目になります。

川内さんのダンス体操

今回は地域の子どもたちが 30 人以上来てくれました。子どもの親や家族など参加者は出演者を含めて 80 人位でした。

腹話術の「ゴローちゃん」（しろたにまもるさん）の司会進行で始まり、最初に、劇団の稽古場でダンス教室を開いている川内和香子さんが、座ったままで出来るダンス体操で参加者全員の心身をほぐしてくれました。次は劇団の瀬谷さんが指導しているまどか朗読グループによる「マッチ売りの少女」と「ブレーメンの音楽隊」、大人でも楽しめた朗読劇でした。出し物の最後は京浜協同劇団の「権兵衛太鼓」でした。さすが劇団の名物にふさわしく軽妙な中にも重厚さがあって見ごたえのある出し物でした。太鼓の音や天狗・般若の面など、子どもにはどうかなと思い子どもたちの反応を見ていましたが、おもしろそうに見ており、感想文でも「おもしろかった」と書いた子どもがほとんどでした。

まどか朗読グループ

お楽しみ会の最後に、参加者全員で輪投げ大会を行いました。3 グループに分かれて輪投げを行いましたが、普段は輪投げをする機会がないので、大人も子どもも楽しそうに興じていました。

休憩時間には下に降りてもらって 1 階でジュースを配り、バザーも行いました。1 階・2 階を含めて劇団の内部を見てもらって、「地域の劇場」に少しでも親しみをもってもらえれば今回の企画は成功したと言えます。地域の子どもと家族にたくさん来てもらい、子どもも大人も楽しめる「お楽しみ会」を今後も企画していきます。

最後に輪投げ

「皇國ノ訓導タチ」を観て

「皇国の学童生徒たち」だった

姫田　政雄

京浜協同劇団からの度々のお誘いにもかかわらず、遠出を控えるようになってからめっきりご無沙汰していたが、「皇國ノ訓導タチ」の案内を見て、ぜひ見たいという思いにかられた。それは、「皇国の学童生徒たち」だったころのことを改めて思い出させたからかもしれない。

校長の「教育勅語奉読」
（写真：長坂クニヒロ　以下同）

いつの時代にも人それぞれに「好きだった先生」「嫌いだった先生」はいるものだが、そんな学童生徒の思い出はさておいて、先生たちは、その時代の流れのなかで生きる教育者として、現実のしがらみから逃れることはできなかったにちがいない。それだけに、いまの激動の時代に生きる先生たちにとって、「皇國ノ訓導タチ」の生きた時代とその生き方から学ぶことの意義は決して小さくはないであろう。もちろん先生だけの問題ではない。ひとつの時代の一国のあり様を規定するうえで「教育」の果たす役割は限りなく大きい。だからこそ、戦後民主主義に敵意をもつ勢力によって、いっかんして教育の反動化が執拗に繰り返し企まれてきたし、その動きは弱まるどころかいっそう危険な状態にさらされているのではないだろうか。

教科書採択をめぐる厳しい対決をはじめ、さきに行われた大阪の知事・市長選挙は、橋下氏率いる「維新の会」の動向に対して「反独裁」の共同のひろがりと

新任の訓導は沖縄出身の……

初等科のお花係さん――

その力は、未来への希望を力強く示したとはいえ、その重大な対決点のひとつとなった「教育基本条例」は、天皇制軍国主義の時代の教育の再生をめざす最新の攻撃の現れであり、それは単なる大阪という一地方の問題でないことは言うまでもない。

こうしたなかで「皇國ノ訓導タチ」がとりあげられたことはまさにグッドタイミングであり、さすがに民主的な演劇づくりをめざす演劇活動にピッタリだと思う。

全員神棚に向かい二礼二拍手一拝

上演の企画から上演にたずさわった方たちをはじめ、出演者の熱演に深い敬意をこめて拍手を贈り、これからも文化の分野における民主主義を守るたたかいの重要な一翼を担って活動されることを心から願ってやまない。　（横浜市在住、元横浜市従委員長）

合同公演「皇國ノ訓導タチ」を終えて

闘う稽古場はおもしろかった

田嶋　啓依子

ことあるごとに、わが劇団よこはま壱座の年配メンバーは言う。「本当はずっと前から京浜協同劇団の皆さんと合同公演したかった！」と。しかしそんな「ずっと前」のことは、ほんの２～３年前に仲間入りした私には関係のないことだ。ただ、合同公演の実施が決まった一昨年の秋、スペース京浜で「黒と白のピエタ」を観たときに、私はあの狭いアトリエが重層的に震え

出すエネルギーに感動した。こんな舞台をつくる人たちと一緒に芝居をしたい、この人たちとならきっとおもしろい芝居づくりができる、率直にそう思った。

それで台本選びのときも、私は京浜協同劇団（以下「京浜」と記す）の皆がこぞって大プッシュする戯曲「皇國ノ訓導タチ」について、私自身深い読み込みもないまま「こんなに京浜の皆さんがやりたいと言うのなら！」と賛成票を投じ、晴れて合同公演の演目が決まった。

あのときの私は単純だった。まさかあんな苦しい稽古漬けの日々が待っていようとは……。

演出担当の濱田は 18 ページにもわたる非常に重たい「演出メモ」（もはやメモの範疇ではない）を全参加者に突きつけてきた。台本に漢字が多くて読みにくいとか、戦前の言葉づかいがわからないとか、そんなことは課題以前の話。濱田はこの戯曲を通じてかつて

本校先輩若宮少尉殿の遺品を

の戦争時代を批判するどころか現代の、それもあの 3 月の大震災が起こって以降の、この国の在り方を問いかけようとした。そのために私たちに必要な歴史的学習の何と量の多いことよ。私、どれだけ真面目に近現代史の勉強してきたっけ？と、小中学校時代の社会の教科書すら引っ張り出さんとする始末である（……いや教科書も一概に正しくはないはずで、と知ったのも大人になってからの話だが）。

濱田はまた、「喜劇性」というのをひとつのキーワードとした。この言葉のシンプルさが、最初はとくに京浜のメンバーに戸惑いを与えたようだった。「戦争をコメディにしちゃうの？」いやそうじゃない、そうじゃないんだ！……と何となく演出意図をわかっているようなフリをする私もまた、自劇団の演出家の注文に応えられない下手な役者の悪あがきでしかない。

今公演の稽古は、ひたすら溢れ出る構想を訴え求め続ける演出家と、それを理解しようとする、そしてアウトプットしようとする、でもなかなかうまく昇華できない役者たちとの、ぶつかり合いの日々であった。

ヤミのタバコ…

そこには二つの劇団さらに多方面から集まった客演の、どの役者にも違いはなく、皆がそれぞれにこの作品のテーマと闘ってきたように思う。

しかし闘う稽古場はおもしろかった。京浜には深みと癖のある役者が揃っていて（失礼？）、私がまだよく知らないその役者から「なるほど」と思う表現が出てきたかと思うと、よく知る濱田演出にコテンパンにやられる。そのうちに各劇団員のパーソナリティも見えてきて、キャスティングの妙が見えてくる。休憩時間におやつのイモを分けあったり、役者同士でダメ出しをもらったりしているうちに、この仲間で、ここにある演劇力の限りをもって、何とかしてこのテーマを闘い抜いてやろうとする連帯感が生まれ、そこから確かにひとつひとつのシーンに磨きがかかっていったと思うのである。

さて終わってみればこの舞台、集客人数的には概ね成功、創造的な面では来場者の感想も、また参加メンバーの反省もいろいろあったわけだが、終演後決して少なくないお客様が、涙して感激の言葉をくださった様子をみると、われら合同公演一同の闘いは相応の成果をあげたのではないかと、それを私は素直に喜びたい。

社会人になって数年、酸いも甘いもわかってきたつもりでもまだまだ両劇団のベテラン陣から見れば若輩者の私、今回の合同公演で色々と興味深い経験をさせていただいた。京浜協同劇団、そして文化の仲間の皆様にはこの場を借りてお礼を申し上げます！

（劇団よこはま壱座）

満蒙開拓志願か家で百姓をするか

芝居は生き物だ

南　敦子

9月の終わり、京浜協同劇団さんとよこはま壱座さんの合同公演『皇国ノ訓導タチ』の読み合わせ稽古に参加させていただきました。しんと静まり返った京浜さんの稽古場に30名近くが、真剣な表情で台本に向かっていました。そこに響く濱田演出のダメ出し。役者に対する感情表現のしかた、もっと他に表現方法はないかと一つ一つのセリフに細かいダメ出しを出されていました。当時の人たちが何を思い、なぜ戦争が始まり、なぜ止められずに行われていったのか、現代の人たちに気づいてもらいたいというようなことをおっしゃってました。私は、タイヘンな芝居に参加してしまったなと思ったのと同時に熱く語る濱田演出に「おもしろい芝居になりそう。参加してよかった」とも思いました。

私がこの芝居に参加することになったのは、5月の川崎郷土市民劇『桝形城・落日の舞い』に出演後、かわさき演劇まつり『カモメに飛ぶことを教えた猫』に誘われ参加、そして今回の合同公演に出演させて頂くことになりました。私の役は、今でいう「モンスターペアレンツ」この舞台の学校に子供を通わせている母親の役。噂で聞いただけの話を本当のことだと思い込み、沖縄や朝鮮を差別してしまう。勉強不足だった私は沖縄が差別の対象になっていたことなど知りませんでした。わずか70年前のこの戦争のことをよくわかっていなかったのです。演出のダメ出しと当時の時代背景などが書かれた演出メモを読み、先輩の話を聞いて芝居を作っていきました。

担任は日本人の先生に…

女々しいぞ、名誉の戦死じゃ

稽古終盤の公開稽古では、文化の仲間の皆様ほか、劇団から招待された方々に一幕の稽古を見て頂き、貴重な厳しいご意見、励ましのお言葉などを頂きました。当時を生きてこられた方皆様が当時のことをいろいろ教えて下さり、とても参考になりました。皆様、目のこえた方達が、ご覧になるのだなと、改めて気持ちの引き締まった瞬間でした。私はこの芝居で、この時代に生きていたかった。この芝居の中で牧野フミという人間で生きていたかった。しかし、どこまで生きられたかは……。また、次への課題となりました。本番間近になってくると皆の集中も高まって芝居がどんどんよくなっていきました。本番、舞台袖からセリフを聞いていると一回ごとに芝居がよくなっていく。芝居は生き物だなと今更ながら、強く感じました。この芝居を通してまた、いろんな方と出会い勉強させてもらえたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。どうも、ありがとうございました。　（協力出演者）

天皇陛下の御ために死んで参ります

特高警察が……

「皇國ノ訓導タチ」の舞台と重ね合わせて

後世に伝えたいと思う

菅野　章

昨年末の 12 月 18 日、県立青少年センターホールで「皇國ノ訓導タチ」を観た。「観た」というより「聴いた」というほうが正確かも知れない。視力の低下で、最前列に近い席で観たものの、顔見知りの役者さんさえ、声とシルエットで判断するような始末。

「感想文を書いて！」の要請も、そんな訳で再三にわたってお断りをしたのですが、余りの熱心さに負けて、正月早々にレンズ片手に原稿用紙と向き合うことになった次第です。

「皇國ノ訓導タチ」の舞台となった昭和 20 年 3 月から 4 月といえば、日本本土が B29 の空襲におびえ

東京の空襲　まわりは全部火の海で

る毎日を送っていたときでした。昭和 13 年 3 月生まれの私は横浜市西区藤棚町の自宅からすぐ近くの稲荷台国民学校 1 年生でした。すぐ前の坂の道に蝋石（ろうせき）で飛行機の絵を描いていると、米軍のグラマンの機銃掃射を受け道端に伏せたり、「出てこい、ミニッツ、マッカーサー」などと大声で唄っていたりしたが、3 月 10 日の東京大空襲で真っ赤に染まる空を見上げ、連夜の空襲警報で裏の崖に掘られた防空壕に逃げ込む日々に「横浜もやられるぞ」との両親の判断で、当時 4 人だった子どものうち姉と私の 2 人を福島県郡山市の遠縁の家に縁故疎開させたのでした。姉が 3 年生、私が 2 年生になったばかりの 4 月でした。

劇中に出てくる「疎開っ子」は菜園泥棒でしたが、あの当時の食糧事情、集団疎開者の生活からすれば無理からぬことだった。私の疎開生活といえば、疎開先が郡山市内で、コークスや練炭、亜炭などの燃料を販

機銃掃射で、足をやられた

売する商店を営んでいたので、私たちもそれほど不自由な日常ではなかったが、燃料として使える馬糞（まぐそ）を取りに早朝から市中に箒と塵取りを持って出かけ、馬車を追いかけ、出たてホヤホヤの馬糞を拾い集めることが日課になっていた。

5 月 30 日の横浜大空襲によって、西区藤棚町の自宅は焼けてしまったが、この頃になると疎開先の郡山市内も空襲警報のサイレンが鳴る日が多くなり、店の床下に掘った防空壕でも危険と判断した家人が、「横浜から預かった子どもに万一のことがあったら大変」と姉と私の 2 人を真夜中に、30 分も歩いて山の小屋に避難させることも何度となくあった。

「焼け出されて空襲もなくなった横浜のほうが安全」と、まだ戦争の終わらぬ 7 月末に横浜桜木町駅に降り立った。3 ヶ月間の疎開生活だったが、あのときの野毛から黄金町に向かっての焼け野原の光景はいまだに鮮明に焼きつき、それは昨年 3 月 11 日の大震災の東北の姿に重なっている。

戦後の食糧難を含め、戦争の悲惨さ、酷さを体験した者にとって、二度と繰り返してはならない戦争を後世に伝えたいと思う。

劇中の佐々木訓導のセリフが耳に残る。「私たちは一体何なの。殺すことを教え、死ぬことを教え、これでも私たちは教師なの、教師といえるの」

（文化の仲間会員）

花を摘んでいただけなのに……

春に劇団員との交流を企画

文化の仲間　代表世話人　**二村　柊子**

2012 年、新しい年を迎えられたことに感謝いたします。去年、京浜協同劇団は、「カモメに飛ぶことを教えた猫」「皇國ノ訓導タチ」と二つの作品を上演し、多数のお客様にご来場いただき、劇団の歴史とともに 2011 年という時代を痛感させられました。

3 月 11 日という日、まるで天と地がひっくり返ってしまったような日。どう歩みを進めていけばよいのか。あの日から 9 か月、師走の深夜、凍てついた夜空の満月が月食で赤黒く欠けていくのを見ていました。月が姿を消し、やがて澄み渡ったとはいえない空に星が輝き始める。“文化の仲間”の丹野卓氏が会報 58 号で石巻での東日本大震災の様子を報告されています。――愛犬を抱きしめ、中学校のコンクリートの階段の片すみで一夜を。夜中外に出てみると星がすごくきれいで――と。星を数え、暗い空を見つめながら、ひっくり返った天と地が元に戻っていくような心地になってきました。

“文化の仲間”は、4 月、劇団の方々と神奈川県の水源となっている道志の山あい「青根緑の休暇村、いやしの湯」へ一泊の予定で出かけることにしました。劇団員と会員のさらなる交流と親睦を期待しております。――時は春、新緑の空気を一杯に吸い込んでみませんか――＊

念願であった会報 1 号～ 50 号の合冊版が出来上がりました。私たちの 13 年間、この年月をお納めください。

＊劇団員と文化の仲間会員との交流企画については、詳細が決まりましたらご案内いたします。会員の皆さん、ご参加ください。

和太鼓で震災被災者支援

川崎太鼓仲間 響　**高橋　明義**

私たち川崎太鼓仲間響では昨年の東日本大震災直後の 3 月下旬の総会で、私たちにできることで震災被災者を支援していこうと確認しあいました。

川崎市では、とどろきアリーナが被災者の避難所になっていましたので、代表が訪問し、避難されている方たちのお話を聞きながら、皆さんに元気になってもらおうと、太鼓の演奏会を計画しました。さっそく、4 月 17 日にいくつかの太鼓チームに呼びかけて、アリーナ前の広場で太鼓の演奏と餅つきをしました。アリーナには南相馬市からの避難者が多いということがわかり、7 月 16 日には「相馬盆唄」などで盆踊り会を、地元町内会の方たちのご支援もいただいて開催しました。このときは、避難者の中から盆唄の唄や太鼓での参加もあり、交流を深めることができました。また、約 30 団体の太鼓チームで、「Play for JAPAN 和太鼓でつながろう！震災復興を目指す実行委員会」ができました。

とどろきアリーナでの盆踊り会

その後、縁あって「実行委員会」で岩手県陸前高田市を訪問し、各地で演奏をするとともに、地元の太鼓チーム「氷上（ひかみ）太鼓」とも交流できました。11 月 23 日には、実行委員会主催の「和太鼓でつながろう！震災復興を目指すコンサート」を麻生市民館で開催、ゲストとして氷上太鼓の皆さんに来ていただくことが実現しました。この「コンサート」では全曲を各太鼓チームからの代表参加での合同演奏にしました。そのためコンサートに向けて、たびたび実行委員会を開催し、合同の練習会ももちました。この取り組みを通じて、実行委員会では「震災復興を目指す思いは一つ」を確認しあうことができたのではないかと思います。

震災復興に向けては、今後息の長い取り組みが必要です。私たちにできる活動に、今後も引き続き取り組んでいきたいと考えています。

（文化の仲間 世話人）

30 年前に警告した原発劇

「臨界幻想」

京浜協同劇団　**城谷　護**

ふじたあさや作品を内田演出で

私たち京浜協同劇団は 6 月に、ふじたあさや作「臨界幻想」を内田勉演出で上演することにしました。

この作品は、今から 30 年前に書かれたものですが、安全神話がお金と共に振りまかれる中で翻弄される住民の苦悩、そして放射能に汚染されていくさまを、まるで今回の福島原発事故であるかのようにリアルに描いています。

「母もの」ドラマ

原発で働く一人の青年労働者が死にます。誰もが病死と思って疑いませんでした。ところが、意外な展開で、母親は本当の死因に気がついていきます。……

この作品は、母親の目を通して原発の恐さや原発の科学的な構造、社会的構造を分かりやすく描いて見せます。1981 年、東京の青年劇場によって初演され大きな反響を呼び、翌年、全国二十数カ所で上演されたほどでした。

そのときの演出者、千田是也は「このふじた君の作は、母親の眼をとおして原発が抱えている問題を誰にもわかりやすくえぐりだしているところにそのすばらしさがあります」と語っています（青年劇場パンフより）。

私は東北の被災地に腹話術をもって 7 回ほど訪問、なかでも原発の福島では大きなショックを受けました。この作品をやりたいとの思いが募って劇団に提案、作者のふじたあさやさんと青年劇場に上演許可をお願いし、幸いにも快諾いただいたのです。

青年劇場は 5 月に

上演は今年 6 月の中旬に、金、土、日を使って 2 週間、合計 10 回、稽古場小劇場「スペース京浜」で上演することにしました。青年劇場はその前の 5 月 18 日から 27 日まで新宿の紀伊國屋サザンシアターで上演の予定です。青年劇場のほうは今日的に改稿したもので「臨界幻想 2011」と改題して上演されます。

私たちはあえて 30 年前のオリジナル版で上演します。先日、藤井康雄代表と私は青年劇場を訪問し、同じ全リ演加盟劇団として「原発をなくす」という趣旨で連帯してお互いの公演を成功させようと、エールを交換してきました。

京浜協同劇団　第 83 回公演

臨界幻想

1981 年 5 月、青年劇場が上演したこの作品は、現在もしくは未来の、日本の原子力発電所とその周辺で起こった架空の出来事だった。

30 年過ぎた今、私たちの問題として迫ってくる

作　ふじた あさや　　**演出**　内田 勉

日程　2012 年 6 月 8 日（金）14：00・19：00／ 9 日（土）14：00・19：00／10 日（日）14：00
6 月 15 日（金）14：00・19：00／16 日（土）14：00・19：00／17 日（日）14：00

会場　スペース京浜（京浜協同劇団稽古場小劇場）

入場料　未定（決まりしだいチラシなどでお知らせします）

問合せ・申込み　京浜協同劇団（044-511-4951）　keihinkyoudougekidan@nifty.com

◎文化の仲間通信◎

◆ミュージカル　アテルイ　北の燿星
劇団わらび座創立 60 周年記念特別公演

日程　2月15日（水）　午後 6 時半開演
会場　関内ホール 大ホール（JR・市営地下鉄関内駅）
原作　高橋克彦／脚本　杉山義法／演出　中村哮夫／作曲　甲斐正人／美術　朝倉摂
料金　一般 4500 円／学生（高校生以下）3000 円
　2 階席 3000 円　　全席自由席

舞台は 8 世紀から 9 世紀の日本。黄金を求める大和朝廷は蝦夷（えみし）を「まつろわぬ民」として征圧を企てる。度重なる侵攻に、蝦夷は人間の誇りをかけて立ち上がる。そのリーダーがアテルイだった。

問合せ　わらび座関東・東海事務所　048-286-8730
　横浜公演を応援する会　045-201-3684

◆歌舞劇団田楽座川崎公演
万歳楽（まんざいらく）

日程　2 月 26 日（日）午後 4 時開演
会場　エポックなかはら大ホール（JR 武蔵中原駅）
料金　1 階指定席　S 席 3500 円　A 席 3000 円
　2 階自由席　大人 2500 円　3 歳～高校生 1500 円
主な演目　お祭り口上／金浦神楽／獅子舞／とりさし舞／山伏笑い講／天平太鼓／獅子躍り　ほか

忘れかけた日本に、会いに行こう。――和太鼓の力強い響きと、郷愁を誘う篠笛や三味線の音。華やかな舞いと笑いをふりまく山伏に時空を超えて、いつしか心はこどもに返る。

問合せ　川崎公演実行委員会（吉田）080-1038-9089

◆川崎市民劇場　第 306 回例会
文学座公演　長崎ぶらぶら節

日程・会場　2 月 25 日（土）幸市民館
　27 日（月）・28 日（火）エポック中原
作　なかにし礼／演出　鵜山仁／出演　平淑江・大滝寛　ほか

小説「長崎ぶらぶら節」は、長年数多くの歌を書き続けてきた私たちの歌へのオマージュだ。一つの歌がいかにして天上から舞い降り、作者の心を通して世に生まれ、また去り、そしてまたいかに甦るか……。不滅の命を持つ歌の力に魅せられた男と女の物語である。（なかにし礼）

申込み・問合せ　溝の口事務所　044-455-7950
　川崎事務所　044-244-7481

◆原発ゼロへのカウントダウン in 川崎

日程　3 月 11 日（日）　12 時開会
会場　中原平和公園

「原発ゼロへのカウントダウン in 川崎」という集会が、大震災のあった 3 月 11 日（日）に開催されます。実行委員会が参加を呼びかけています。12 時から 2 時まで、中原平和公園で。その後パレードがあります。

問合せ　実行委員会　中部建設労組（丸山）
　電話　044-722-4445

◆「腹話術の会★きずな」発表会

日程　3 月 25 日（日）
　午前 11 時～ 12 時半　子ども向け
　午後 0 時半～ 4 時　　大人向け
会場　川崎市総合自治会館ホール
入場料　無料

劇団員のしろたにまもるさんが代表をしている「腹話術の会★きずな」の第 6 回発表会「腹話術のつどい」が東日本復興支援行事として開かれます。

問合せ　城谷　044-544-3737

◆川崎市民劇場　第 307 回例会
幹の会＋リリック公演　女王メディア

日程・会場　4 月 5 日（木）・6 日（金）エポック中原
　7 日（月）幸市民館
作　エウリピデス／修辞　高橋睦郎／演出　高瀬久男／出演　平幹二朗・城全能成・三浦浩一・石橋正次　ほか

メディアの夫イアーソンは領主の娘と縁組しようとする。怒った妻は領主親子に猛毒入りの贈り物を……。

■会報 1 号～ 50 号の合本ができました

たいへんお待たせしていましたが、会報の『文化の仲間』第 1 号から第 50 号までをまとめた合本が出来上がりました。これまでの文化の仲間と京浜協同劇団の歩みを、会報を通してご確認ください。

制作費を節約するために、印刷用のデータを極力自前で用意しましたので、デジタルデータの残っていなかった 20 号くらいまでは写真にシマ（モアレ）が出ていたり、文字がかすれたりしていますが、ご容赦ください。

■文化の仲間ギャラリー■　　小野寺 晃⑤